

熊本高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	英語I
科目基礎情報						
科目番号	LK2105			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	人間情報システム工学科			対象学年	1	
開設期	通年			週時間数	4	
教科書/教材	森住 衛ほか『MY WAY English Communication I』三省堂、『MY WAY English Communication I WORKBOOK』三省堂、大西泰斗・ポール・マクベイ『総合英語 FACTBOOK これからの英文法』桐原書店、桐原書店編集部『総合英語 FACTBOOK English Grammar [Standard]』桐原書店、数研出版編集部『英語4技能型テストへのアプローチ0』数研出版、桐原書店編集部『DataBase 4800完成英単語・熟語[6th Edition]』桐原書店					
担当教員	楠元 実子,高木 朝子,Ambrose Richard					
到達目標						
1. 基本的な英文法を理解できる。 2. 基本的な英文和訳ができる。 3. 文法事項について調べ、問題を解くことができる。 4. 基本的な英語を聞いて理解することができる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1：英語のつづりと音との関係理解		学習範囲について、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発音できる。	学習範囲について、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発音ができる。	学習範囲について、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣することが困難で、また発音記号を見て発音することができない。		
評価項目2：語彙および文法事項		中学校での既習の語彙や文法事項の確実な定着に加え、学習範囲の語彙や文法事項を十分理解することができる。	中学校での既習の語彙や文法事項の確実な定着に加え、学習範囲の語彙や文法事項をほぼ理解することができる。	中学校での既習の語彙や文法事項の定着が十分でなく、学習範囲の語彙や文法事項を理解することができない。		
評価項目3：リーディングとライティング		学習範囲について、内容を読んで十分に理解し、また内容について概要など簡単なライティングを行うことができる。	学習範囲について、内容を読んでほぼ理解し、また内容について概要など簡単なライティングをほぼ行うことができる。	学習範囲について、内容を読んで理解することが難しく、また内容について概要など簡単なライティングをすることができない。		
評価項目4：リスニングとスピーキング		学習範囲について、聴いて内容を十分に理解し、また内容について他者に口頭で明確に説明することができる。	学習範囲について、聴いて内容をほぼ理解し、また内容について他者におよそ口頭で説明することができる。	学習範囲について、聴いて内容を理解することができない。また内容について他者に理解してもらえないように口頭で説明することができない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	週2時間のうち、1.5時間は検定教科書と文法テキストを用い、英語の基本四技能（読む・書く・聞く・話す）の習得を目指す。0.5時間はLL教室にて、リスニングとスピーキングの授業を行う。通常の定期試験に加え、年複数回の英単語コンテストを実施するほか、適宜小テストを行う。予習は必須であり、教員によるノートチェックも行う。					
授業の進め方・方法	教科書については、単語と熟語の意味調べ、本文の内容の確認などの予習をする。ワークブックの各課の前半の予習ノート部分を記入する。授業中にメモをとり、復習しやすいノート作成/プリント記入を心がける。各課ごとにワークブックの各課の後半の練習問題を利用して復習を行う。FACTBOOK/Workbookについては、参考書で学習をし、EXを解いてから授業に臨むこと。普段から身のまわりの英語に関心を持ち、図書館の英語テキスト（多読用Graded Readers）や英語の映画や音楽などを参考にする。『英語4技能型テストへのアプローチ0』については、各自で指示された範囲を家庭学習し提出する。授業では主にリスニングとスピーキングを学習し、残りは家庭学習課題とする。E-Learningが家庭学習課題になる場合がある。					
注意点	規定授業時数（単位時間）：120時間。校内英単語コンテストを実施する。本科目は英検、TOEICなどの英語試験と関連性が深い。授業中の活動を重点的に評価するため、真剣に取り組むこと。4技能（読む・書く・聴く・話す）を更に伸ばすべく、授業外においても音読練習、課題等、継続して学習に取り組むとともに、日常的に英語に触れておくこと。年間総合評価が60点に満たない場合は、再提出したレポートや再評価試験にて評価する。再評価でも60点に満たない場合は単位を認定しない。 【自学・自習について】 この科目は学修単位のため60時間相当の自学・自習が求められる。本科目は積み重ねが必要な科目であるため、自学自習により毎回の授業内容を理解した上で授業を受けること。					
授業の属性・履修上の区分						
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス MY WAY 1: L1 FACTBOOK English Grammar: L1-4 英語4技能型テストへのアプローチ0: L1-4	英語のつづりと音との関係を理解し、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発生できるようになる。中学校での既習の語彙や文法事項、構文を定着させる。学習範囲について、基本文型や助動詞、to不定詞等を理解して、それを用いた簡単なリーディング、リスニング、簡単なライティング・スピーキングができるようになる。		
		2週	MY WAY 1: L1 FACTBOOK English Grammar: L1-4 英語4技能型テストへのアプローチ0: L1-4	英語のつづりと音との関係を理解し、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発生できるようになる。中学校での既習の語彙や文法事項、構文を定着させる。学習範囲について、基本文型や助動詞、to不定詞等を理解して、それを用いた簡単なリーディング、リスニング、簡単なライティング・スピーキングができるようになる。		

[illegible]

		13週	MY WAY 1: L10 FACTBOOK English Grammar: L13-16 英語4技能型テストへのアプローチ0: L5-7 すぐに使える英会話: part 1-3	英語のつづりと音との関係を理解し、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発音できるようになる。中学校での既習の語彙や文法事項、構文を定着させる。学習範囲について、現在完了進行形や完了形の受動態、仮定法過去等を理解して、それを用いた簡単なリーディング、リスニング、簡単なライティング・スピーキングができるようになる。
		14週	MY WAY 1: L10 FACTBOOK English Grammar: L13-16 英語4技能型テストへのアプローチ0: L5-7 すぐに使える英会話: part 1-3	英語のつづりと音との関係を理解し、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発音できるようになる。中学校での既習の語彙や文法事項、構文を定着させる。学習範囲について、現在完了進行形や完了形の受動態、仮定法過去等を理解して、それを用いた簡単なリーディング、リスニング、簡単なライティング・スピーキングができるようになる。
		15週	定期試験	
		16週	答案返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文社会科学	英語	英語	聞き手に正しく伝わるよう、語・句・文における強勢、文におけるリズム・イントネーション、音のつながり・区切りを意識しながら明瞭に音読あるいは発話できる。	2	
				中学校までに学習した語彙の定着を図り、高等学校指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な語彙を習得して適切に運用できる。	2	
				中学校までに学習した文構造及び文法事項に加え、高等学校学習指導要領に準じた文構造及び文法事項について習得して適切に運用できる。	2	
				日常的な話題や社会的な話題について、はっきりとした発音で、調整された速さで話された内容から、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握できる。	2	
				日常的な話題や社会的な話題について、基本的な表現を用いて、情報や考え、気持ちなどを話すことができる。	2	
				日常的な話題や社会的な話題について平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握して必要な情報を読み取り、書き手の意図、概要や要点を把握できる。	2	
				日常的な話題や社会的な話題について、自分の意見や感想を整理し、情報や考え、気持ちなどを伝える文章を書くことができる。	2	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢を持ち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	2	
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。	2	
				自分の専門分野などの予備知識のある事柄や関心のあるトピックについて、話の展開や話者の意図に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点を把握できる。	1	
				英語でのディスカッション（必要に応じてディベート）を想定して、意見や主張、課題の解決策などをやり取りできる。	1	
				英語でディスカッション（必要に応じてディベート）を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	1	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	1	
				関心のあるトピックについて、意見や主張を適切な理由や根拠とともに伝える複数の段落を書くことができる。	1	
				自分の専門分野に関する口頭発表などを念頭に置き、関心のあるトピックについて、平易な英語でのプレゼンテーションや内容に関する簡単な質疑応答のやりとりができる。	1	
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	1	
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	1	
	工学基礎	グローバル化・異文化多文化理解	グローバル化・異文化多文化理解	異文化、多文化について説明できる。	2	
				多様性の概念及びその重要性を説明できる。	2	
				グローバル化の進展により生じた産業、経済、政治への影響及びグローバル化と科学技術との相互作用を説明できる。	2	
				技術者としてグローバルに活動する際に求められる知識、資質、能力について説明できる。	2	

評価割合

	試験	平常点（小テスト・レポート等	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	60	40	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0